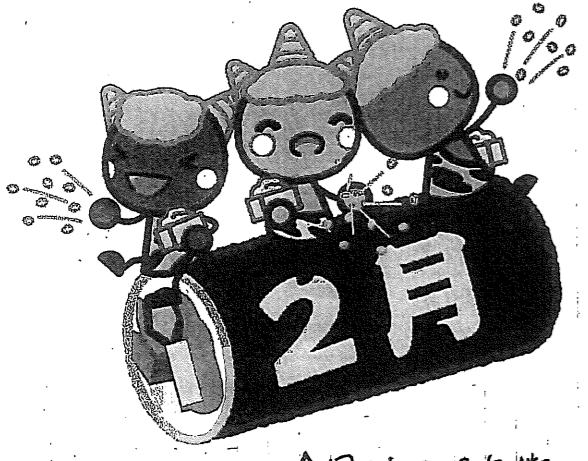


月刊 利根日石新聞

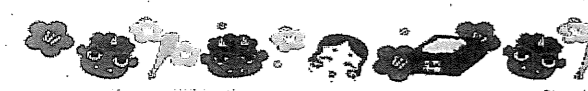
2009年11月1日創刊 令和5年2月号

発行 利根日石株式会社 TEL 0278-24-1635
 本紙販売管理課 FAX 0278-23-7980



先月、沼田でも-12度の温度計を見ておっど!!
 昔のような因りかたす。10年に一度の寒気が来るとか
 言われ心配した。2月は冬至と昼夜の長さか
 ほぼ同じになる春分との中間になり寒さが
 少しずつ和らぎはじめ、堅い花のつぼみが
 見え隠れしたり、春一番など暖かい春の到来
 が待ちどおしい時期です。今年もまたひとつ
 季節が廻り桜の花が咲くのももう少しです。
 次から次へと変異して生きていくコロナウイルス
 どんな栄養でこんな元気なの？と思います。
 感染は今も大変な状況ですが季節外生インフル
 インザと同じ5類となっていくようですが
 子供たちの学校生活や病院の対応など心配
 がいらはいいコロナでない病気で倒れてもその持
 ちてきた方がいて運命だけはとどまらぬように
 願っています。

全国4日温泉街
 調査があり、中条
 町の四万温泉が
 1位で伊香保温泉
 が4位でした。その
 川の流しや山の景色
 がますます昔ながらの射的かあったり落ち
 かけた街並みが温泉地の人気があつた。



『春は来る』 和歌の心
 『春寒の日は続いていますか』 暦の上での2月は、「立春」を迎えるまで春の気配が感じられる時期
 ではありません。立春は、一年を二十四に区切った「二十四節気」の一番目で、一年で最も日が短い冬至と昼夜
 の長さがほぼ同じになる春分との中間に当たります。また、茶摘みで有名な「八十八夜」や、台風のおたりに
 目といわれる「二百十日」などの起算日が立春です。先人たちは、このように「二十四節気」や「雑節」
 などの季節の区切りを農耕などに役立ててきた。気持ちは新たに日々の生活に張りを持たせる
 ことにもつながりました。改めて、私たちの暮らしに目を向けると様々な区切りがあります。例えば
 朝礼は、仕事に向かう意識に切り替える時間といえます。また、帰宅時の「たたいま」という挨拶
 は、家庭での時間に切り替わるスイッチになります。

日々の生活での切り替えを意識し、充実した時間を過ごしたいものです。
 充実とは、足りない点や欠陥が、十分に備わっている事、内容が豊富である事
 とは充実した一日を送っている。充実を感じる事ができずにいるのか...
 日々の生活での切り替えをやつた。充実を感じる事ができたらいいわ、やってみよう。



電気代の高騰、ついにピークを超えるか?

最近の電気代が、かつて無い程に値上がりしているのは、多くの方が実感している事と思います。この
 利根日石新聞でも電気代については昨年の3月号、7月号、10月号と度々取り上げて来ました。ここ数ヶ月の
 電気代が特に上がったように感じますが、昨年のロシアによるウクライナ侵攻(昨年2月)の前からエネルギー
 価格の上昇とともに伴う電気代の上昇はじわじわと、確実に続いてきました。

1年前の昨年3月号を読み直してみると良く分かります。この時(2021年2月)、既に前年比24%(+3,270円)
 も値上がりしていました。

おなじ条件(従量電灯B、40A、520kWh)で
 今年の1月と比べると、電気代合計が19,482円
 と14%(+2,329円)値上がりしています。但し、
 これはこの例が規制料金のため燃料調整費
 が上限(5.13円/kWh)に達し、9月以降の
 燃料の値上げ分が反映されずにこの程度

	2021年2月	2021年2月
基本料金	1,144円	1,144円(±0)
従量料金	13,877円	13,877円(±0)
再エネ賦課金	1,550円	1,747円(+197円)
燃料調整費	-2,688円	385円(+3,073円)
合計	13,883円	17,153円(+3,270円)

(5.13円/kWh × 520kWh = 2,667円)で済んでいます。自由料金の場合は @12.99円/kWh × 520kWh = 6,754円
 となります。オール電化やENEOSでんきなど比較的新しい料金プランの値上げ幅がここ数ヶ月大きく感じるのは
 この為です。

	2023年1月	2023年2月	2023年6月
基本料金	1,144円	1,144円	1,144円
従量料金	13,877円	13,877円	21,656円
再エネ賦課金	1,794円	1,794円	1,840円
燃料費調整額	2,667円	2,667円	0円
激変緩和助成金	0円	-3,640円	-3,640円
合計	19,482円	15,842円(-3,640円)	21,000円(+5,158円)

しかし、規制料金にもついに
 大幅な値上げが実施されます。
 1月23日に東京電力が6月からの
 規制料金の値上げを
 経済産業省に申請しました。
 その値上げ幅は何と3割!

上の表は、現行1月の料金と、政府による「激変緩和助成金」が始まる2月と、東電の値上げが始まる
 6月の料金を比較したものです。この試算では2月比32.5%(+5,158円)の値上げとなります。申請どおり
 値上げが認可されるかは限りませんが、2月から始まる激変緩和助成金(@7円/kWh × 520kWh = 3,640円、
 ▲18.7%)もこれでは焼け石に水となりかねません。

一方、自由料金を苦しめてきた燃料価格の高騰はピークを越えようです。下の図は原油、LNGと燃料調整額(燃料
 費調整額)を比較したものです。このグラフが示すとおり、6月には原油価格が、そして9月にはLNGが、ともに
 ピークを越え、下降傾向を辿っています。原油、LNG、石炭の価格によって算出される燃料調整額も、12月~1月を
 ピークに下降傾向に入りそうです。ちょうど季節も北半球が寒さのピークを越えるため、世界的に需給が
 緩む時期にも重なります。このまま春に向けて燃料や電気の価格が落ちついていくことを切に願います。

